

社会

2026 年度入試のねらいと出題方針

出題方針

- 1、入学後に社会科を学んでいくときに知っておいてほしい、基本的な知識を確認します。
- 2、出来事の原因・背景や制度の趣旨に目を向けるという、社会科を学ぶときに必要な力も測定します。
- 3、新聞の一面で取り上げられるような出来事をはじめ、日本や世界の諸事象に関心を向けているかどうかを試す問題も、時事問題として出題します。

具体的な作問の方針(問題構成)

- 1、知識に関する問題は、小学校の教科書や中学受験用のテキストに出ている事項を中心に出题します。
- 2、全ての問題に目を通すことができる長さの問題文にしています。
- 3、**1**地理 **2**歴史 **3**公民の順に配列してあります。
- 4、内容に関しては、基本的な知識を確認する問題が多く、形式に関しても空らんに入る用語を答える問題、下線の語句について答える問題という形式がほとんどです。
- 5、地形図、グラフ、史料文などから読み取る問題や、文章で答える問題も出題します。

解答を進める上でのアドバイス

- 1、**1**から順番に解く必要はありません。普段の学習で得意としている分野から解くようにしてください。
- 2、難易度順に配列してあるわけではありませんので、わからない小問はとばして全ての問題に取り組むことを目標にしてください。
- 3、文字は大きく、正確に書けるようにしましょう。

採点基準と配点について

- 1、配点は歴史に重点を置きます。
- 2、漢字で答えるよう指定してある問題にひらがなやカタカナで答えた場合、不正解とします。
- 3、文章で答える問題では、中心となる用語の誤記は減点しますが、それ以外の言葉はひらがなで書いてあっても減点しません。
- 4、例えば『〔 **①** 〕権』という空らんに解答する際に、『〔行政権〕権』と言葉を重複して解答してしまった場合は、減点します。

2025 年度入試採点結果の分析

A入試

地理〔1〕では修善寺（静岡県）周辺の地形図の読み取りを中心に出题しました。歴史〔2〕では歴史的な建造物と歴代の外務大臣をテーマに出题しました。公民〔3〕では三権分立（特に司法）をテーマに出题しました。

得点率：69%

〔1〕 問1：(1)64% (2)89% (3)67% (4)65% (5)99% (6)51% 問2：(1)57% (2)94% (3)73% (4)81%

問3：(1)85% (2-X)88% (2-Y)52% 〔1〕全体：72%

〔2〕 問1：(A)85% (B)75% (C)90% (D)92% (E)90% (F)80% 問2：48% 問3：57% 問4：53% 問5：(1)87% (2)41% (3)63%

問6：65% 問7：45% 問8：60% 問9：86% 問10：46% 問11：15% 〔2〕全体：60%

〔3〕 問1：(1)64% (2)83% 問2：96% 問3：68% 問4：94% 問5：(1)90% (2)67% 問6：91% 問7：76%

問8：35% 〔3〕全体：76%

C入試

地理〔1〕では日本の産業や交通などについて出题しました。歴史〔2〕では関東地方にある遺跡や、ゆかりのある歴史上の人物をテーマに出题しました。公民〔3〕では国際平和と国際的な安全の維持をテーマに出题しました。

得点率：66%

〔1〕 問1：(1)97% (2)92% 問2：68% 問3：(1)75% (2)89% (3)71% 問4：(1)53% (2)70% (3)36%

問5：(X)45% (Y)61% 問6：55% 〔1〕全体：66%

〔2〕 問1：(A)82% (B)94% (C)15% (D)58% (E)86% (F)64% 問2：77% 問3：89% 問4：(1)64% (2)26% 問5：57%

問6：74% 問7：91% 問8：(1)69% (2)74% 問9：(1)88% (2)75% 〔2〕全体：69%

〔3〕 問1：(1)68% (2)47% 問2：90% 問3：73% 問4：62% 問5：83% 問6：(1)83% (2)83% 問7：64%

問8：8% 〔3〕全体：63%

地理・歴史・公民いずれの分野についても、基本的な学習事項が身についているかを試す問題が中心でした。思考力・表現力などを問うグラフや資料の読み取り問題、論述式の説明問題も出题しました。また、時事問題も出题しました。

A入試C入試ともに、人名など具体的な用語を書く基本問題は比較的よくできていました。一方、差が付いたと思われる点は、①似たような用語の区別（「○御成敗式目」と「×武家諸法度」など）、②時代や地域の特徴を問う問題や因果関係を問う問題、③論述問題の解答内容、④比較的容易と思われる文字の間違いが挙げられます。

誤答の特徴としては、「時代ごとのできごとが整理できていない」「用語の意味と結びつけて理解できていない」と思われる解答や、論述問題では「正確な表現ができていない」「設問の要求を満たせていない」記述がありました。また、比較的容易と思われる文字の間違いも散見されました。正確に書けるように反復学習をするとともに、相手にしっかり伝わるように文字は大きく・丁寧に記述することも心がけましょう。

対策としては、まずは基本的な学習事項の理解の定着を図りましょう。「なぜ～をしたのか（起こったのか）＝当時の社会の課題は何だったのか（原因）」→「その結果どうなったのか（課題は解消したのかそうではないのか（新たな課題が生まれたのか）」という見方・考え方を、学習する上で意識してほしいと思います。また、1行程度で用語を説明したり、提示された資料を読み取り学習した知識と結び付けて記述したりする練習も積みましょう。そして、ニュースや新聞などを見て、社会のできごとにアンテナを張りましょう。過去問題の類題も出题されているので、過去問題集での演習もとても効果的です。